

当院健診受診者の腹部エコー検査実施者集計から見たもの

～NAFLD とメタボリックシンドロームの関係性～

健診科 ○福田知恵 西田眞由美

【目的】

非アルコール性脂肪性肝疾患(以下 NAFLD)の中で、非アルコール性脂肪肝炎(以下 NASH)は、メタボリックシンドロームの肝臓での表現型として重要である。多くは肥満やメタボリックシンドローム・糖尿病・脂質異常症を合併することが分かっている。本邦においては、近年、肝硬変の成因として、NASH が増加している現状がある。そこで当院健診受診者における、腹部エコー検査での脂肪肝の有無と健診データを集計し、健診科の今後の取り組みを検討した。

【方法】

対象は、2015 年当院健診受診者における、腹部エコー検査実施者 325 人(男性 161 人女性 164 人)とした。方法は、腹部エコー検査での脂肪肝の有無と、体格指数 BMI、血圧、各種血液生化学所見を比較集計した。脂肪肝の判定は、画像所見で 2 項目以上で脂肪肝有と判定した。各データは、人間ドック協会の判定基準に応じ、基準値以上を異常値として集計した。問診より、飲酒量 1 日換算で、NAFLD は男性 30g 女性 20g 未満、中等度飲酒脂肪肝は男性 30～70g 女性 20～40g 未満、アルコール性脂肪肝は男性 70g 女性 40g 以上とした。

【結果】

腹部エコー検査実施者 325 人は、40～50 代に多く、うち 90 人は当職員(男性 17 人女性 73 人)だった。実施率は 13.2%と少ないが、腹部エコー検査実施者における、職員の実施率は 16.5%で、全体における職員の割合が多いことが分かった。BMI25 以上の肥満者の割合は 95 人 29.2%(男性 61 人女性 34 人)、BMI25 未満の非肥満者 230 人 70.8%(男性 100 人女性 130 人)だった。

腹部エコー検査実施者において、脂肪肝の割合は 53.2%、肥満者において 77.9%、非肥満者において 43.0%で、肥満者に脂肪肝が多く指摘された。また肥満者の割合は、脂肪肝がある者において 42.8%、脂肪肝がない者において 13.9%で、脂肪肝がある者に肥満者が多く見られた。

実施者における NAFLD の割合は、46.8%、中等度飲酒者脂肪肝は 5.5%、アルコール性脂肪肝は 0.9%で、NAFLD が最も多く指摘された。そこで対象が多い NAFLD152 人(男性 79 人女性 73 人)において、健診データを比較検討した。NAFLD の肥満者の割合は 44.1%、非肥満者は 55.9%で、非肥満者が多く見られた。血圧高値の割合は 35.5%、脂質代謝異常は 80.9%、糖代謝異常は 50.7%、肝機能異常は 48.7%だった。また NAFLD の鑑別診断に使用される FIB-4index を比較すると、ほとんどが低値だった。

また肥満の有無・飲酒量別に、健診データリスク因子数を比較した。非アルコール性の者において、非肥満者より肥満者にリスク因子数が多く合併していた。

【考察】

今回の集計では、健診の腹部エコー検査実施率は少ないが、実施者の半数以上、特に肥満者には、高率に脂肪肝が指摘された。脂肪肝は NAFLD が最も多く、その半数以上は非肥満者だった。NAFLD は高率に脂質代謝異常、半数に糖代謝・肝機能異常が合併していた。非アルコール性の非肥満者においても、生活習慣が不規則で、健診データリスク因子が合併するときは、NAFLD の可能性があり、積極的な腹部エコー検査の推奨が必要であると考えられる。腹部エコー検査の職員実施率も多いことから、職員をはじめ、健診受診者における、メタボリックシンドロームからの動脈硬化予防・NAFLD からの NASH・肝癌予防に努めたいと考える。